

# がん組織診断と解析

ジェネティックラボ(札幌市)

市)は国立大学発のバイオベンチャーとして全国で初めて国の承認を受け、がん細胞の遺伝子データベースをつくる目的で2000年に設立された。その後、札幌市内の病理診断会社などを収益確保などを目的に統合し、がん組織の病理検査と遺伝子解析を一手に引き受ける全国でも珍しい会社になった。

道内約400の病院と提携し、がんが疑われる組織の診断を引き受けている。送られてくる組織は1日約230件。がんかどうか、どこまで広がっているかなどを3人の病理専門医が



ジェネティックラボ(札幌市)

## 患者に合った治療 遺伝子レベルで探る



病理診断する技師たちと岡本浩之社長(左) 札幌市中央区

診断し、病院に伝える。

同時に高度な検査機器でがん細胞を遺伝子レベルでも解析する。技術者が患者の特性を分析し、どの抗がん剤が効果的かな

どを担当医に伝え、薬を選ぶ際の参考にももらう。

病理診断と遺伝子解析を組み合わせたことで確実な診断ができるという。岡本浩之社長は「遺伝子解析分野の進歩はめざましい。最先端の中でも最先端でなければ生き残れない。マグロのように常に泳ぎ続けなければならぬ」と話す。

将来は患者一人ひとりの特性に合わせた個別化医療が広がる。岡本社長は見る。そのためには個人の腫瘍の遺伝子の特質を示す指標(バイオマーカー)の探索が不可欠という。正常な細胞を傷つけず、特定の人の特定のがん細胞を攻撃する薬の開発には、その発見が前提となるためだ。

ただ、経費のかさむ研究部門はいま、凍結を余儀なくされている。病理診断と遺伝子解析などに特化し、安定した収益を確保する体質への転換を進めているといい、「いつかは研究部門を再開し、新しいバイオマーカーを発見して特許を取りたい。今は経営基盤を強くして経験を蓄積する時です」と話している。(古賀大己)

ジェネティックラボ 2010年度の売上高は5億8千万円で、従業員は60人。創業に取り組む製薬会社や大学、病院などの研究支援も事業の柱。

学会などで発表される最先端の解析技術について研究者らに助言する。この3年間で約500プロジェクトに取り組んできた。

! 次回は「これがスゴイ」として、焼き肉などの調理用溶岩プレートを加工・販売している足寄町の「マルシヨウ技研」を紹介する予定です。